

衝突被害軽減ブレーキの作動について

!!注意!! 衝突被害軽減ブレーキは万能な機能ではありません。

衝突被害軽減ブレーキ（トラフィックアイブレーキ）は、前方の車両に車間距離を超えて近づき追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

警告

衝突被害軽減ブレーキ（トラフィックアイブレーキ）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

衝突の可能性のない場合の作動について

ここでは、予期せぬ作動（警告／軽いブレーキ／強いブレーキ 及び 状況によって警報と強いブレーキが同時）が発生するケースについて紹介します。詳細は取扱説明書/クイックガイドをご覧ください。

◆衝突の可能性がなくても、以下の場所でトラフィックアイブレーキが作動することがあります。

- ・低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- ・高架橋（梁がある下）を通過しようとするとき
- ・アンダーパス（立体交差の下）を通過しようとするとき

※その他にも、取扱説明書/クイックガイドに図で示すケースなどがありますのでご確認ください。（次ページにクイックガイドを紹介します）



- 予期せぬ作動が頻繁に発生する場所では、一時的にトラフィックアイブレーキの解除（スイッチOFF）などして頂くことをお勧めします。また、強いブレーキが作動すると積み荷の荷崩れが発生するおそれがありますので、**荷崩れ防止のために、積み荷の積み付け、固縛、歯止め作業**の対応をお願いします。
- 日本トラック協会発行の、'安全輸送のための積み付け・固縛方法'に記載されている内容をご参照ください。

TEB OFFスイッチ TEBランプ



衝突被害軽減ブレーキの作動について

* 予期せぬ作動(衝突費が軽減ブレーキの作動により、弱いブレーキ作動 / 強いブレーキ作動)が発生するケースについてクイックガイドより抜粋

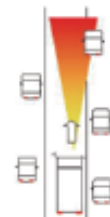
ケース1

左カーブで右折待ち車の左側を通り抜けようとするとき、右折待ち車を自車の正面に検知し、ブレーキが作動する場合があります。



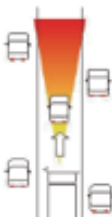
ケース2

直線路で両側の隣接車線が渋滞中、自車のふらつき、隣接車線の車両のふらつきや車線変更などにより、隣接車線の車両を自車の正面で検知したとき、ブレーキが作動する場合があります。



ケース3

渋滞中の直線路にて、自車が加速して先行車に接近するか、先行車が減速して自車と接近したとき、ブレーキが作動する場合があります。



ケース4

先行車に接近後、車線変更や追い越しをするとき、ブレーキが作動する場合があります。



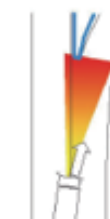
ケース5

直線路で先行車が店舗などに進入する際、先行車の後ろを追い越すとき、ブレーキが作動する場合があります。



ケース6

車線変更しながら分岐路に進入するとき、分離帯のガードレールなどの路側物を検知し、ブレーキが作動する場合があります。



ケース7

路肩がほとんどないような道、又はガードレールや中央分離帯のポール等、路側物の直近を走行するような状況では、自車のふらつきにより、ブレーキが作動する場合があります。



その他

- ・ ETCゲートを通過するとき。
- ・ 狭いトンネル、鉄橋、高架橋、歩道橋等、道路を覆う構造体の下を走行するとき。
- ・ フェリー乗船時、船舶内を走行するとき。
- ・ 電波を反射する金属物(マンホールや工事現場で路面に敷いている鉄板など)の上を走行するとき。
- ・ 詳細は取扱説明書をご確認ください。

※国土交通省及び日本自動車工業会のホームページに、運転支援システム(衝突被害軽減ブレーキ、全車速追従クルーズコントロールなど)の使用に関する注意喚起の掲載及びビデオが掲載されていますのでご参照願います。

運転支援システムは、あくまでも運転者の支援システムであり、機能的限界もあるため、過信及び誤解をせずに安全にお使いいただけるように注意をお願いします。 (ホームページ記載内容の要約)

01 先進安全装備は、あなたの安全運転のサポート役
運転支援装置には作動条件や限界がありますので、システムを過信せずに安全運転を心がけましょう。

クルマが自動でブレーキをかけてくれるの？

作動しにくい事例



飛び出しや割り込み 雨など天候・路面状況 感知しにくい形状のもの

衝突被害軽減ブレーキは、クルマが障害物を感知して警告やブレーキの補助操作を行います。条件によっては作動しない場合があります。安全運転を前提に、システムの過信は禁物です。

国土交通省掲載ページURL

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_003668.html

国土交通省掲載ページURL

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_002954.html

日本自動車工業会掲載ページURL

<http://www.jama.or.jp/user/carlife/01.html>